やはり人が決め手。入居者も職員も温かく迎えてくださり入居前から安心でした

伊豆高原〈ゆうゆうの里〉

岡本　陽子様（73歳）令和元年10月　一人入居

施設内の庭園でパークゴルフを練習する岡本様（中央）

母の奨めで薬剤師の道へ

私は小学校に上がるまで体が弱い子供でした。小児喘息とわかってから小学3年まで治療を続けて良くなりました。それまでは体育や音楽の授業などは全部休んでいましたが、段々と元気になり中学校の時には、友達と海にも行けるようになりました。友達と遊べるのを励みに、もっともっと元気になろうと心掛けるようになりました。

高校時代は数学や化学が好きで、数学の先生に憧れて自分もそうなりたいと真剣に思っていました。でも私の担任は無理と判断したようです。そう伝えられた母は私に薬剤師になることを奨めました。薬剤師は母自身の憧れでもありました。目標が定まってからはお正月も返上で猛勉強をしました。自分でもよくやったと思います。

そして、薬剤師として応募した自衛隊中央病院の試験では、何と私一人が合格。後から面接官全員が私を推薦したと聞き「一所懸命やっていれば報われるんだ」と感じました。

営業は男の世界。でも、ありのままに飾らずに

自衛隊の調剤薬局で3年働いた後、自分のお店を開きたいと思い、新橋にある先輩のお店で修業させていただきました。その後、管理薬剤師として普通の会社に勤務することになりましたが、そこでは営業も兼ねることになりました。営業は初めてでした。その業界で女性は私一人しかいなかったのです。男性との戦いでしたね。女性というだけで会ってくれないとか、何度も心が折れそうになりました。それでも、営業経験のある叔父が「ありのままの姿で良い。飾らなくていい」、「3年は我慢しろ」と助言をしてくれ、私は3年間我慢しながら頑張れたのです。その甲斐があり段々と信頼されてきて仕事が面白くなってきました。男性にない視点で考える企画が採用してもらえるまでになりました。色々な方ともお話ができるようになり学びながら成長できました。そこは70歳の退職まで30年働きました。

桜の季節に、「自立型ホームとは何か」を確かめに

退職してからも、亡き両親が建てたマンションの賃貸経営をしていましたが、「いつまでできるかな」と思ったことがありました。その時に自立型ホームが主催する講演会という新聞広告が目に止まったのです。「自立型って何、一般的な老人ホームと何が違うの」と興味が湧き、友人と一緒に見学して確かめることにしました。4月初めの伊豆高原の桜並木は満開。敷地内は緑豊かで「なんて素敵なところなの」というのが最初の印象でした。空気が東京と違って新鮮に感じました。「こういう選択肢はありだな」と思いました。体験入居すると、ご入居者と仲良くさせていただくようになり、散歩やサークルや食事もご一緒させていただきました。皆さん、温かく迎えてくださり、入居前からすごく安心感がありました。

強いて希望を言えば、女性のゴルフ仲間を増やしたい

入居してから毎朝、健康体操と散歩。週3日はお仲間とパークゴルフ。週2回の夕食は自炊と決めて買い物。サークルも行事もあります。空いている時間にゴルフ練習場へと、忙しい毎日です。これから挑戦したいことは…今でもけっこう忙しいので、強いて言うならですが、女性のゴルフ仲間を増やしたいです。ゴルフは29歳の時、社長から勧められて始めましたが、体力維持向上や営業の仕事にも役立ちました。やっぱりゴルフしている時は楽しいです。この辺はゴルフ場もたくさんあるから、コロナが明けたら東京の仲間を呼びたい。プレーも温泉も楽しんでもらいたいな。